

平成27年度東京都高等学校対校陸上競技選手権大会のみどころ

女子は昨年の長崎国体でも皇后杯を獲得し、まさしく「全国一」の競技力であるといえます。昨年度には男子同様4種目に東京都高校新記録が誕生しました。今年の大会でも昨年以上にレベルの高い競技が展開され、競り合うことで好記録誕生の可能性も高くなるだろうと思います。女子選手たちの健闘にもご声援をお願いします。

女子

・短距離

100mは、男子の大嶋 健太同様昨年の山梨インターハイチャンピオンのエドバー イヨバ（東京3）が、今年のインターハイでの連覇を目指して今大会に出場する。春先の故障もあり、織田記念などの出場も控えこのインターハイ路線に集中していることから万全と考えてよいだろう。自己記録は11秒80だが、今年は全国高校記録を目指しているので11秒前半の走りを期待したい。エドバーに続くのが、同じ東京高校の福田真衣・斉田 果歩の2年生コンビだ。特に福田は昨年の長崎国体少年B100mに入賞し、11秒台を目標にしている選手であることから実力は伴っている。他には広沢 真愛（八王子3）が12秒27、モカダミ・サラ（藤村女2）が12秒25の記録を持ち、支部予選でもまずまずのレースをしているので上位に食い込んでくるだろう。

200mも100m同様かと思うが、400mを得意とする上村 希実（東京3）は第一支部予選で向かい風の中24秒台をマークしておりエドバーを脅かす存在となろう。また、東京高校1年の守田 紗矢香は昨年のジュニアオリンピックに優勝しており24秒64の自己記録を持っているが、アジアユース選手権の日本代表に選出されており、今大会は南関東大会までシードされている。出場すれば優勝候補の一人であることは間違いない。風などのコンディション次第では入賞者全員の24秒台が期待できる。

400mは、今季好調の上村 希実が支部春季・東京選手権と強風の悪コンディションの中で立て続けに56秒前半をマークし優勝候補ではある。しかし、深澤 みなみ（國學院3）・伴 明日香（白梅学園3）が上村に立ちはだかりそうだ。また、東京高校1年生の井上 彩加は、この種目初レースながら56秒93をマークし非凡なところを見せており上位入賞を目指している。57秒前半でも入賞は厳しくなるかもしれない。

中長距離

800mはここ数年レベルが高く、現時点で自己記録2分11～13秒台までに6人もの選手が存在する。6人のうち2分11秒台の者が2名いるだけに2分10秒を切る優勝記録を期待したい。そのうち、五十嵐 恋（日本橋女3）は昨年各大会で安定した実績を残しており、最も優勝に近い存在だ。木村 綾愛（早実3）、陣在 ほか（城西大城西2）、草場 史佳・森川 侑果（ともに東京高校3）、小溝 茜里（白梅学園1）がそれぞれの持ち味を発揮し混戦となれば好記録が期待できる。男子同様タイムレースの予選から目が離せない。

1500m・3000mでは順天の佐藤 みな実（3年）・平賀 奏美（2年）と八王子の石川 優鈴・今泉 野乃香（ともに3年）の駅伝ライバル校の争いとなるだろう。実力的には昨年のインターハイにまで駒を進めた佐藤と、長崎国体少年Bで入賞している平賀が一枚上手である。これに山本 美帆・宮田 彩子・金杉 侑香（ともに3年）をはじめとする東京高校勢や錦城学園・城西大城西といった駅伝校の選手たちが中心としたレース展開となるだろう。

・ハードル

100mHでは、今年はかなり高いレベルでの混戦となりそうだ。昨年は残念ながら13秒台をマークした選手はいないが、14秒前半には5名もの選手が名を連ねている。これまでの実力的には澤田 イレーネ（都文京3）と鳴川 亜美（白梅学園3）の優勝争いとなるだろう。しかし、澤田は冬場の故障からか今季は未だハードルに出場していないだけに心配だ。さらに昨年の長崎国体少年Bで優勝している八尋 はるか（白梅学園2）や新人の大野 優花（白梅学園1）などが優勝争いに加わり激戦となるだろう。

400mHでは、1分01秒を切るような突出した選手がおらず、誰が勝つかわからない状況だ。その中で、走力に成長がみられる平原 杏華（都松が谷2）が優勝にもっとも近いと言える。400mのタイムも向上していることから、一気に1分を切るところまで行ける可能性を持っている。平原と争えるのは、田島 梨紗乃（東京3）、井口 彩紀（都東大和3）、土肥 愛基（八王子2）らで1分01秒台を目指し予選から積極的なレースをするだろう。10台目を越えてからのデットヒートが楽しみである。

・競歩

昨年急成長をした萩原 采以子（都富士3）の優勝は間違いないだろう。4月に入ってから石川県・輪島市で行われた全日本競歩大会ではジュニア10kmで第5位に入る健闘も見せている。歩型・スタミナ・スピードともに優位であり、東京都高校記録を目標にできる事から今年は全国出場に向けて更なる記録向上を楽しみにしたい。26分台が関東出場の4位争いとなるだろう。

・跳躍

走高跳では、七種競技が専門の高橋 このか（白梅学園3）が1m70を昨年も、そして今季も東京選手権の寒いコンディションの中クリアしている。コンスタントに1m67以上を跳ぶだけによほどのことがない限り高橋の優勝は揺るがないだろう。他に1m65以上の記録を持つ選手は、勝負強い伊徳 有加（都芦花3）くらいだが、上位争いを演じそうなのは高橋 花織（専大附2）、栗原 理沙（都東大和2）、高橋 渚（東京1）、小西 佑佳（早稲田実業3）で、6位入賞は1m64あたりか？

走幅跳では、昨年5m90を跳んでいる高橋 このかが最有力だが、今年は素晴らしいルーキーが存在する。昨年度中学生として5m96を跳んでいる東 佑希（八王子1）だ。東は第六支部予選でも高橋との直接対決を制しており、中学時代も大舞台での勝負さを備えていることから、今大会でも注目される対決となるであろう。この二人を追うのは第一支部予選で5m70を跳んだ高畠 実咲（日工大駒場2）や今季成長の寺尾 千彗（都文京3）であるが、5m50あたりが6位入賞となりそうだ。

オープン種目の棒高跳と三段跳にも注目してもらいたい。

棒高跳では、第一支部予選で3m66の東京都高校新記録をマークした青柳 有香（都雪谷2）のこの記録は、昨年度の全国高校ランキング6位に相当する好記録である。青柳は中学時代、体操競技を経験しており、バランスの良い身体能力を生かした素晴らしい跳躍に注目してもらいたい。まだまだ普及活動が必要な種目だが、是非多くの女子選手に取り組んでももらいたい。

棒高跳とは対照的に、三段跳は最近多くの選手が出場するようになり、今大会への参加標準記録も10m20にまで引き上げられた。11m50を跳ぶと「全国クラス」レベルとなるが、昨年この記録を上回っているのは、小川 瑞穂（都城東2）、寺尾 千彗（都文京3）であるが、石田 詩織（都青梅総合3）、中島 彩也香（東京3）も今季好調で上位を伺うだろう。優勝記録が12mに近付くことを期待する。

・投擲

砲丸投では、坂本 早映（三田国際3）が昨年13m52を投げ、インターハイでも決勝にまで進出している。今季はまだ13mを越えてはいないが、徐々に昨年のような瞬発力に優れた投げとなっただけに、今大会では昨年の記録を更新してもらいたい。坂本と競いそうなのは草野 夏咲（東京2）で、第一支部予選では12m41にまで記録を伸ばしてきた。また、昨年のインターハイに出場した藤田 幸颯（三田国際3）、清水 捺帆（都田無3）にも12m以上を投げる力があるだけに侮れない。11mを越えないと南関東出場は難しいだろう。

円盤投は、昨年インターハイに出場し38m00の記録を持つ藤田 幸颯が最有力だろう。だが、他にも35mを越えている選手が白石 颯希（東京3）、田中 夢乃（東京2）、徳田 沙那子（都三鷹中等2）といるだけに誰が勝つかはわからない。しかも、今シーズンはまだ誰も36mを越えていないだけに、このままだとインターハイ出場も危ぶまれる。是非とも奮起し40mへ近づく投擲を見せてもらいたい。

やり投は、昨年の都新人大会で大会記録となる47m44をマークし、東京都高校記録（47m97）にまであと僅かにまで迫っている小林 比奈乃（都芦花3）に期待したい。冬の間は故障もあり、今シーズンはまだ4

3 m台ではあるが、試合を重ねるたびに本来の投げに戻りつつある。小林以外に40 mを越えている出場選手はいないが、佐藤 明菜（3年）・三橋笑萌（2年）の日体荏原コンビや根岸 紗那（三田国際3）も力があり優勝のチャンスがあるだろう。

・混成競技

七種競技は、東京都選手がここ数年連続でインターハイに上位入賞している種目だ。今年も有力な選手が存在する。それは、跳躍2種目で優勝候補に挙げられている高橋 このかであり、全国大会でも優勝候補NO1である。高橋は、跳躍種目はもちろん、やり投げも40 m以上を投げ、スプリント種目にも長けている。5500点を目指した全国高校記録まで視野に入れていることだろう。最後の800 mまで見逃すことはできない。高橋を追うのは、新入生で昨年の四種競技全国チャンピオンの大野 優衣（1年）で、白梅学園同士の戦いとなるだろう。大野には高校1年生歴代最高記録を期待したい。栗原 理沙（都東大和2）や安東 依里奈（都駒場3）にも全国出場の実力があるだけに、レベルの高い争いとなるだろう。

・リレー

4×100 mリレーでは、昨年1・2年生で46秒46をマークして日本ユース2位の東京高校が今年も全国優勝を目指している。エースのエドバーを中心にバトンパスにも磨きがかかり安定している。今季初レースの支部予選では46秒66で走っており好記録がかなり期待できる。更に新入生の加入で層も厚くなったので、異なったオーダーでも好記録を出すことは可能だろう。コンディションが良ければ今大会でも45秒台は期待できる。東京都高校新記録のアナウンスが聞けることができるかも知れない。東京を追うのは八王子・白梅学園・日工大駒場・都つばさ総合でいずれも47秒台前半を目標にしてくるだろう。

4×400 mリレーでは東京高校と白梅学園の激突が見物である。共に56秒台の選手がおり、他にも57秒～58秒台の選手もいて層も厚く3分45秒に迫る決勝のレースとなろう。両校は全国大会でも優勝を争う事にもなるだけに白熱した展開となるだろう。オーダーにも注目したい。2校に続くのは八王子で、城西大城西・日工大駒場あたりが南関東出場を競い合うのではないだろうか？

・総合

東京高校が、短距離・投擲など全般にわたり戦力が整っていることから総合優勝の第一候補だろう。白梅学園も跳躍・七種競技・100 mHなどでの大量点でどこまで対抗できるかが見物である。特に最終日に得意種目が多い白梅学園の追い上げに注目したい。順天・八王子・城西大城西・日本橋女学館が2校に続くものと思われる。